



濃い目キャラのクリエイティブ集団



KBC 香川大学放送部 Kagawa University Broadcasting Club

香 川大学放送部は、男子7人、女子7人が所属する大学公認のサークルです。主な活動は二つ。一つ目は、地元ラジオ番組への出演、二つ目はNHK全国大学放送コンテストへのエントリー作品の制作です。

FM香川の「WEEKEND SHUTTLE」には、毎月第2金曜日の14時頃から出演しています。「香川大学放送部 Do Your Best」というコーナーで、放送部から毎回二人が交代で参加し、パーソナリティの桂こけ枝さんや筒井智子さん、毎月のお題について話します。7月のテーマは「七夕」。

部員に「何かイベントを行うか」「叶えたい願いごと」などのアンケートを取り、その回答を発表しつつ面白くトークを展開していきます。

「初回出演時は生放送という事もあり、ものすごく緊張しましたが、こけ枝さんと筒井さんが上手く話を引き出してくれるので、思った以上に喋ることができました。それが楽しくて、もう10回以上出演しています。『また君か』と突っ込まれますね」というのは、副部長の前田優太さん（経済学部3年）。他に、部室でのトークを録音し、自分達で8〜10分の番組に編集した音源を有線番組に提供したりもしています。こちらは「香大

生の茶飲み話」というタイトルです。

一方、NHK全国大学放送コンテストの作品制作は、毎年6月からスタートして夏休みに佳境を迎えます。アナウンス、朗読、音声CM、ラジオドラマ、映像番組、映像CM、ライブの7部門があり、部員各々が興味のあるものを協力しながら制作しています。

「地域大会の上位10作品は、全国大会に出場できるのですが、ここしばらくは誰も行けていません。全国大会、行きたいですね」と、部長の寺西敦也さん（法学部3年）。

4月に新入部員が入ってきた時には、発声練習や、朗読、映像制作の方法などのレクチャー等を行います。基本的には厳しい縛りはなく、自由に集まって自由に活動するのだからです。「卒業したらTV関係の仕事をした」というプロ志向の人の映像を撮りたい人、なんとなく喋ることが好きな人などが、それぞれのスタンスで部活に参加します。

部長・副部長から最後に一言。「部員全員キャラは濃い目ですが、（笑）、いろんなタイプの人がいるので、毎日が楽しく、どんな人でも馴染みやすいと思います。一緒に全国大会を目指しましょう！少しでも興味が沸いた人は、ぜひ放送部へ」。



週に5日の練習で
目指すは1部リーグ

香川大学サッカー部
KAGAWA UNIV. FOOTBALL CLUB since 1924

週 に5日、幸町キャンパスのグラウンドで精力的に動き、汗を流しているのが香川大学サッカー部です。練習中、ひととき大きな声を出しているのが、2年生キャプテンの森宗一郎さん。3年生部員が一人しかない状況の中、高校時代にサッカー部のキャプテンを務めた実績と「この状況なら自分がやるしかない」と思っていたという強い責任感を買われて、キャプテンに抜擢されました。

森さんに、高校時代のサッカーとの違いを聞いてみると、少し考えてから「一人ひとりが大人になるサッカーです」と答えてくれました。というのは、香川大学のサッカー部には、つきつきりで指導してくれる監督がいまいません。練習メニューや戦術、練習試合の相手まで、すべて自分たちで決めていきます。自分のことは自分で管理する。それが「大人になる」というわけです。普段から自分で考えるクセが付くと試合中の視野も広くなり、プレーも変わってくるそうで、森さんは「考えるサッカーは、うちの部の強み」と分析しています。

一方、グラウンドを離れての自由な雰囲気もサッカー部らしさのひとつです。練習が終われば、先輩

後輩の垣根を越えて、みんな和気あいあい。堅苦しさがありません。昨年の夏には自然豊かな山中でキャンプを行い、サッカーのことを忘れてアウトドアを満喫しました。普段の練習がハードなので、オフの時は思いっきりリフレッシュ。メリハリのある活動を心がけています。

6月に開催された、天皇杯の県代表を争う香川県選手権では準優勝。惜しくも代表にはなれませんでした。が、森さんは今のチームに手応えを感じています。部の最大の目標は、4部の大学リーグでの1部昇格です。1部昇格の条件は、10月のトーナメントに優勝し、その上で1部リーグ最下位との入れ替え戦に勝利すること。ここ数年、入れ替え戦に勝利したチームはなく、どこに対戦しても手ごわい相手となりますが「サブライズを起こします！」とキャプテン以下、全員が意気込んでいます。

香川大学サッカー部は「週に5回もサッカーに集中できる恵まれた環境」という森さん。現在のメンバーは経験者が中心ですが、経験は問わず、サッカーが好き！という新入部員に来て欲しいそうです。一人ひとりの自立が求められる4年間は、社会に出てからも役立つ経験を積みそうです。